

問五 文章の論理の展開の仕方をとらえ、適切に表現する問題

A このような信頼と助け合いの精神は、ヒトの持つ特殊な心のおかげだと考えられています。もっと具体的に言えば、ヒトの持つ高い**共感能力**によります。相手がうれしければ自分もうれしくなり、相手が悲しければ自分も悲しくなり、笑いかければ、ついこちらも笑ってしまうという能力です。共感とは相手の感情が自分の感情になるということです。

B さらに、ヒトは相手の気持ちを想像することができます。相手の気持ちが想像できるようになると、相手を助ければ相手が自分に感謝することを予想できるようになります。そうなれば相手からの助けも期待することができます。そうすれば私があなただけを助け、あなたが私を助けるという助け合いの関係が生まれます。助け合いが続けば相手とも信頼関係が生まれます。自分が協力すれば、きっと相手も協力してくれることが信じられるようになるのです。

C 信頼関係が築かれたことによって、はじめて物と物を交換することが可能になります。交換は信頼できる相手としかできません。信頼できない相手は、偽物を渡してくるかもしれませんし、受け取るだけ受け取って逃げしてしまうかもしれないからです。

D 交換ができるようになって初めて分業が可能になります。交換ができるのであれば、生活必需品をすべて自分で作る必要はなくなり、それよりも人が欲しがるといふ素晴らしいものを作ればよくなります。専門家が誕生し、技術が発達していくようになります。**かくして**、ヒトは生物史上例のない巨大で発展した社会を作り上げたのです。

市橋伯一 『協力と裏切りの生命進化史』による。一部改変

二 問五 本文中に「ヒトは生物史上例のない巨大で発展した社会を作り上げたのです」とあるが、その社会を作り上げるまでの過程を説明した次の□に入る内容を、三十字以上、四十字以内でまとめて書け。

共感能力によって
ヒトは巨大で発展した社会を作り上げた。

ことになり、

問三 類義語を見だし、条件に合わせて適切な語句を導き出す問題

問四 語句の辞書的な意味と文脈上の意味をとらえ 適切な語句を導き出す問題

【新聞記事の一部】

エスカレーター 歩かないやさしさ

思いやりのある乗り方を
今、エスカレーターの乗り方に
関心が集まっている。急いで
いない人は片側に立ち止まり、
急ぐ人は反対側を歩くのが日常
風景のエスカレーター。「立ち
止まって、手すりにつかまって
乗ろう」と鉄道事業者や障がい
のある人が呼び掛けている。
エスカレーターを歩く人がいる
ことにより、転倒などの事故が
たえないうに、障がいのある
人にとっては、危険を感じさせる
からだ。誰もが安心して利用できる
ような心遣いが必要である。
東京五輪・パラリンピックに
向け見直しの気運が高まって
いる。

西日本新聞 2019年9月14日夕刊による。一部改変

この記事は、五輪・パラリンピックに向けて、「変わろう、変えよう」という雰囲気ができつつあるという一つの表れだね。

祖父

障がいのある人や外国から来た人など、いろいろな人に配慮して、誰もが安心して利用できる状況に変えたいな。

花子さん

そうだね。多様性への理解と対応が求められているね。そのためには、いろいろな人の存在を価値あるものとして大切にすることが大事だよ。

一 次は、花子さんが「新聞記事の一部」を見て、祖父と話をしている場面である。これらを読んで、後の各問に答えよ。

問三 配慮の類義語を、新聞記事の一部から三十字でそのまま抜き出して書け。

問四 祖父が話した「価値あるものとして大切にすること」の内容と同じ意味を表す語句を漢字二文字で、楷書で書け。

次のように考えて解きます。

- 「巨大で発展した社会」をつくりあげるまでの「過程」が本文のどこに書かれているかを確認する。
 - 本文のヒトは生物史上例のない巨大で発展した社会をつくり上げたのですの直前にある語 **かくして** に着目する。「かくして」とは、「こうして」という意味⇒この語よりも前に「過程」が示されている。 **必要な知識や技能**
 - 内にある「**共感能力**」という語に着目する。本文の段落 **A** に初めて出てくる。⇒「過程」は段落 **A~D** に示されている。

指示する語句、接続する語句、キーワード等、文章の内容や構造を捉える手がかりとなる語に着目して読む。

- 段落 **A~D** から、「共感能力」に続いて「過程」を説明する際に必要な情報を探す。
 - 各段落の内容を整理する。
 - ①から説明に必要な**キーワード**を探す。

段落	内容
A	信頼と助け合いの精神は、ヒトの持つ高い 共感能力 によるもの。
B	ヒトは相手の気持ちを想像することができるので、 信頼関係 が生まれる。
C	信頼関係が築かれたことによって、 交換 が可能になる。
D	交換ができるようになって、 分業 が可能になる。 専門家が誕生し、 技術 が発達することになる。

- 段落 **A** : 共感能力
段落 **B** : 信頼関係
段落 **C** : 交換
段落 **D** : 分業、専門家、技術が発達

考え方のポイント

キーワードをつなげて考えると、文章全体や部分を、目的に応じて短くまとめることができる。

- 指定された文頭、文末表現と字数制限を守り、キーワードをつないで考えをまとめる。

共感能力によって **信頼関係が築かれ交換、分業が可能になった結果、専門家が誕生し、技術が発達する** ことになり、ヒトは巨大で発展した社会を作り上げた。

次のように考えて解きます。

- 【問三】 **必要な知識や技能**
- 配慮の**類義語**を考える。
「配慮」とは「よく考えて心を配ること」
類義語には「気配り、気遣い、心配り、心遣い、心配、思いやり、等」がある。
 - 【新聞記事の一部】から類義語を三文字という条件で探す。
⇒ × 思いやり（四字）、○ **心遣い**（三文字）

- 【問四】
- 「価値あるものとして大切にすること」に含まれる
↓ キーワードをとらえる。
「価値がある」「大切にすること」
 - キーワードと漢字二文字という条件をつないで考える。
⇒ **尊重**

考え方のポイント

「知っている語句」を手がかりに、初めて出会う語句の意味を考えたり、表現したい内容にふさわしい語句を考えたりする。

問三 登場人物の言動の意味や設定の仕方から、内容を理解して自分の考えをまとめる問題

【これまでのあらすじ】
己之吉・お園夫婦の営む料理店「川瀬」をひいきにしてくれていた歌舞伎役者市川海老蔵が、お咎めを受け江戸追放になった。早いご赦免を願う、己之吉は大好きなお酒を断ち、お園は波除け神社に参り、お百度を踏んだ。八年後、お咎めが解け海老蔵は江戸へ戻った。己之吉は海老蔵がいつ店を訪れてもよいように、もてなす準備をしていた。だが海老蔵はまだ訪れない。己之吉は不安になってきた。

「そうさ、からかっていたのさ」
からかわれていたとも知らず、海老蔵に特別扱いされた、と己惚れていた自分が恥ずかしい。ぜいたくに馴れた舌には、水の吟味こそ一番のもてなしと、①毎日毎日目黒村くんだりまで、水汲みに行ったのも、ばかげた独りよがりだった。
「水の味なんか、分るわけがねえ」
損料払って小舟を雇い、桶も新しく揃えて、お不動様にはお供え物、取り寄せた材料はずいぶん沢山、無駄にした。二十日余りに遣った金は、三両を超えている。
三両といえば、仲働きをしていたお園の一年分の給金である。多くても一朱二朱の勘定しか取らない料理店で、三両の仕込み代金は法外だ。だが、それも、「お蔭様で、ここまでやれるようになりました」という気持のうちのひとつと思い、損得抜きでやってきた。
②「安手な男だなア、俺は」
手間も暇も、かかった入費も惜しくはない。惜しくはないが、情ない。ぜいたくが、骨の髄まで染みこんでいる大立者と、海老蔵を見込んだ自分が情ない。
「あら、あんなことを」
お園は軽くかわし、翌日もその翌日も、渋る己之吉をなだめすかして、目黒へ水を汲みに行かせた。
お園の方も、満願で止めたお百度を、またこの日から踏み始めた。
「ふん、お百度の通じる相手じゃねえや」
己之吉は邪険にいったが、お園は笑ってとり合わない。そして、また、五、六日たった。
その日の川瀬はたてこんでいた。二階の座敷にも、七人もの客がいた。
四つ（十時）近くだったか、客も大方帰り、そろそろ火を落とそうという刻限に、格子戸が、からりと開いて、新規の客が入ってきた。海老蔵だった。連れが一人。顔見知りの狂言作者である。
「さてと、ぬたは、まだありますかね」
つい昨日も立寄った、といった風情で小上がりに座を占めると、海老蔵は気軽といった。
「へえ」
一瞬ぼんやりとして、ただ突っ立っていた己之吉は、大きく呼吸してから、手早く「ぬた」を拵えて海老蔵の前に供した。
「お不動様のご利益」
お園が、己之吉の脇をすり抜けながら耳元に囁いて行った。
「波除け様だろう」
口の沖で、己之吉は呟く。
小半刻。海老蔵が立ち上がった。己之吉は、片だすきはずしながら、傍に寄り、改めて帰郷の祝いを述べた。
「ありがとうございます」
海老蔵は丁寧な礼を述べてから、自分より上背のある己之吉を見上げていった。
「それにしてもご亭主、いい料理人になんすったねえ」
名題の大目玉が、己之吉を真っ正面から見据えている。
「恐れ入ります」
上ずった声で受ける己之吉に、海老蔵は追い討ちをかけた。
「ところでお前さん、料理に使う水を、一体どこまで汲みに行きなすった」
「あつ」
③「己之吉は棒立ちになった」
「親方……」
己之吉は、ほそほそと目黒不動の水を使ったこと、親方に喜んでもらう気でしたが、逆にこっちが誉められ、今有頂天になっていることなどを告げた。海老蔵は大きく一つ頷いてから、いった。「今日ほどぜいたくな思いをしたことはありません。お心尽し、有難く頂戴いたしました。まったくもって役者冥利につきます」
深々と頭をさげる海老蔵を、己之吉は、夢のように見つめていた。④後に控えているお園の嗚咽が、耳に届く。
(竹田真砂子『七代目』による。一部改変)

次のように考えて解きます。

【ア】について

考え方のポイント 「人物設定」を考えると、人物像や人物同士の関係がどのようなものか、また、その人物が物語の中でどのような役割を果たしているか、ということをとらえる必要がある。「行動や会話」などが手がかりとなる。

- ① 本文中の己之吉に対するお園の「行動や会話」に注目する。
- 「あら、あんなことを」 お園は軽くかわし、渋る己之吉をなだめすかして目黒へ水を汲みに行かせた。 → **なだめる**
 - お園は笑ってとり合わない。
 - 「お不動様のご利益」 耳元に囁いて行った。 → **ねぎらう**
 - 後に控えているお園の嗚咽 → **よりそう**

② ①で考えたことをもとに、資料の前後の文章のつながりと字数制限をふまえて、ふさわしい語句を考える。 ⇒ **支える**

【イ】について

① 資料にある会話と根拠Ⅰ・Ⅱの内容から二人の心情をとらえる。(右図)

考え方のポイント 登場人物の心情は、「行動や会話」、「情景」、「キーワード」が手がかりになる。

② ①で考えたことをもとに、資料の前後の文章のつながりと字数制限をふまえて、語句を考える。
⇒ **感謝**

己之吉	お園	会話	根拠Ⅰ・根拠Ⅱから	心情
波除け様だろう	お不動様のご利益			
自分ではなく、お園によるものだ	己之吉の労によるものだと伝えていることがわかる。			
お園へ「イ」 「自分ではなく、お園のおかげ。ありがとう。」	己之吉へのねぎらい 「よかったね。これまでよくがんばったね。」			

問三 次の□の中の文章は、本文中の「お不動様のご利益」から己之吉とお園の、二人の関係を通して読み取れるお園の人物設定についてまとめたものである。ア、イに入る、最も適当な語句を、アは五字以内、イは二字で、それぞれ考えて書け。

【お園の人物設定】妻として己之吉をア人物として設定されている。
*根拠Ⅰ 「お不動様のご利益」と己之吉に囁くことで、今日を迎えることができたのは、己之吉の労によるものであると伝えていることがわかるから。
*根拠Ⅱ お園の言葉に対して「波除け様だろう」と呟くことで、今日を迎えることができたのは、自分ではなく、お園によるものだと、己之吉がお園にイの思いを抱いていることが分かるから。

未来への架け橋 << 令和2年度版 >>

次のように考えて解きます。

- 1 問の [ア]、[イ] の前後の文を確認して、どのような語句が入るか見当をつける。
- [齊王] は、[齊] と [魏] の二国が疲弊衰弱している間に [ア] ことを [恐れ]、[魏] に対する [イ] ということ。
- ⇒ [ア] 齊王が恐れたことが入る。それは、二国が疲弊衰弱している間に起こる。
 [イ] 齊王が魏に対して行ったことや考えたこと等が入る。

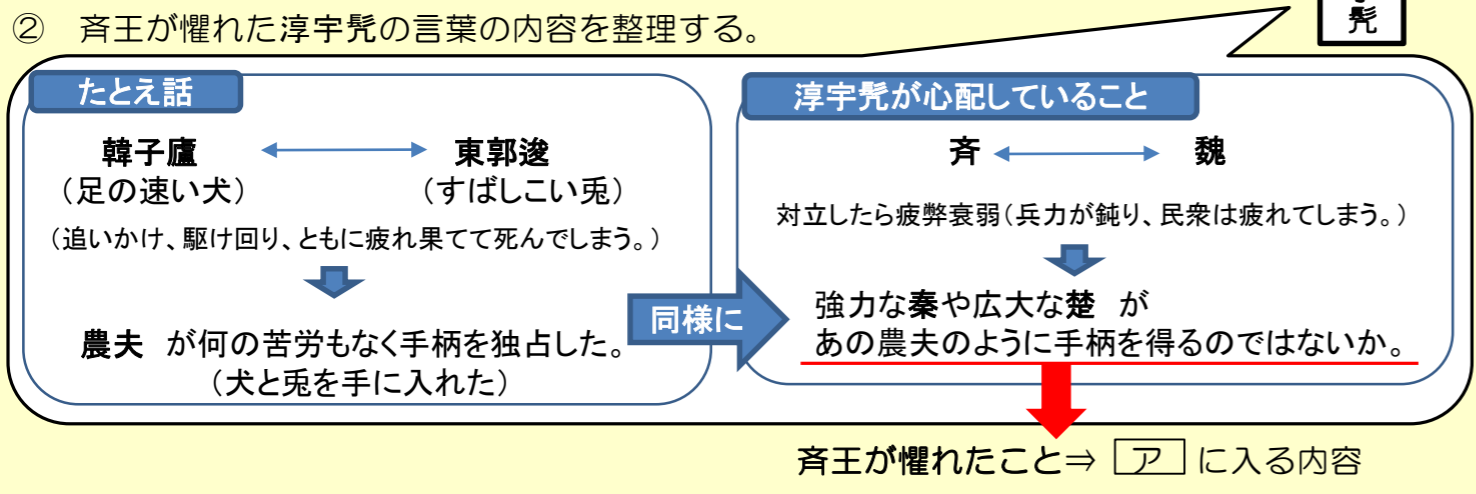
必要な知識や技能
 古典では、主語や述語、助詞が省略されることがあります。意味が分かる語句を手がかりにして、つないで読むことが大切です。

- 2 本文から、傍線③「齊王懼れて、将を謝し士を休す」の内容をとらえる。
- 考え方のポイント**
 口語訳【B】や（注）を参考に、「誰が、何を、どうした」か、と主語や助詞等を補いながら読む。

① 「齊王懼れて、将を謝し士を休す」の内容を整理する。

○「誰が、何を、どうした」か ⇒ 齊王が(?)を懼れた。
 ○その結果、「将を謝し士を休す」⇒「將軍を解任し、兵士を帰らせ休ませた」

「齊は魏をせめることをやめた」ということ。⇒ [イ] に入る内容



- 3 前後の文章とのつながり、「国土」という語句、字数制限等を踏まえて、考えをまとめる。
- 齊王は、齊と魏の二国が疲弊衰弱している間に **強力な秦や広大な楚から国土を奪われる** ことを恐れ、魏に対する **攻撃を取りやめた** ということ。

問四 論理の展開や場面や人物の設定等、内容を理解して自分の考えをまとめる問題

四 次は、中国の「戦国策」という本にある話【A】と、その現代語訳【B】である。これらを読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

【A】
 齊王は、魏を伐つたんと欲す。淳于髡曰く、「韓子廬なる者は、天下の疾犬なり。東郭逵なる者は、海内の狡兎なり。韓子廬、東郭逵を逐ひ、山を環る者三たび、山に騰る者五たび、兎、前に極れ、犬、後に廢れ、犬兎俱に罷れて、各其の處に死す。田父之を見、勞勩の苦無くして、其の功を擅にせり。今、齊・魏久しく相持して、以て其の兵を頓らし、其の衆を敝らさんとす。臣、強秦・大楚の其の後を承けて、田父の功有らんことを恐る。」と。齊王懼れて、将を謝し士を休す。

【B】
 (注) 齊、魏：中国古代の国の名。 淳于髡：齊王の家来。 秦、楚：中国古代の国の名。
 (林秀一「新釈漢文大系 第47巻 戦国策(上)」による。一部改変)

齊が、魏を伐とうとした。(そのことについて) 淳于髡が齊王に向かって言うには、「韓子廬というのは、「天下まれに見る足の速い犬(の名前)です。東郭逵というのは、国内まれに見るすばしい兎(の名前)です。韓子廬が東郭逵を追いかけ、山の周囲を駆け巡ること三たび、山の頂に駆け登ること五たびしていると、兎は前方で力尽き、犬は後方でたくたになり、犬も兎もともに疲れ果てて、それぞれその場で死んでしまいました。農夫はこれを見て、何の苦勞もなく手柄を独占したのです。今、齊と魏とが久しく対立することで、兵力を鈍らせ、民衆を疲れさせようとしています。私は、強力な秦や広大な楚が、齊や魏の疲弊衰弱につけ込んで、あの農夫のように手柄を得るのではないかと心配しております。」と。齊王は恐れて、將軍を解任し、兵士を帰らせ休ませた。

問五 次の [ア] 中の文は、③ 齊王懼れて、将を謝し士を休す について説明したものである。[ア] に入る語句を、十字以上、二十字以内の現代語で考えて書け。ただし、国土 という語句を必ず使うこと。また、[イ] に入る語句を、八字以内の現代語で考えて書け。

齊王は、齊と魏の二国が疲弊衰弱している間に [ア] ことを恐れ、魏に対する [イ] ということ。

次のように考えて解きます。

考え方のポイント

問や条件、資料から、「何を書くのか」、「どのように書くのか」ということを明確にする。

① 問題の内容をとらえる。

- 学習指導のボランティアの方に、体育大会の案内をする。
- 第一段落には、相手に伝える際に最も大切にしたいことについて【資料1】から選び、その理由を書く。

↑ (つなげて考える、ということ)

- 第二段落には、第一段落をふまえて、伝えたいことを最も効果的に伝えることができる手段を【資料2】から選び、その理由を書く。

必要な知識や技能

理由を述べる場合は、根拠を明確にしたり、文末表現（～から、等）に注意したりする必要がある。

② 資料の内容をとらえる。

- 話し合いを記録したメモ・・・招待（「目的」）する「相手」や「手段」、「内容」、資料等
- 【資料1】「相手に伝えるときに大切にしたいこと」についての意見
 - 中川さん・・・具体的に詳しく
 - 山下さん・・・気持ちを込めて
 - 上田さん・・・要点を簡潔に
 - 本村さん・・・伝わったかどうかを確認しながら
- 【資料2】学級で考えた伝える手段の特徴

「情報のやり取り」	「手書きの手紙」「電子メール」「電話」「訪問」の、4つの手段の
「相手の状況」	特徴が示されている。

③ 【資料1】で選んだ考えにふさわしい手段を【資料2】から選び、理由となる情報を整理する。

(例)

	第一段落：大切にしたいこと	第二段落：手段
中川さん (具体的に詳しく)	体育大会の見どころを具体的に詳しく伝えたいから。	手紙 ⇒ 見どころである応援合戦について、練習での出来事や当日の見せ場のこと等、多くのことを伝えることができるから。
山下さん (気持ちを込めて)	日頃お世話になっているボランティアの方にぜひ来てほしいという気持ちを伝えたいから。	訪問 ⇒ 直接相手とやり取りすることで自分の気持ちを確実に伝えられるから。
上田さん (要点を簡潔に)	相手が体育大会に来るときに困らないように情報を正確に伝えるために、要点を簡潔にまとめたいから。	電子メール ⇒ メールには要点を簡潔に書き、プログラム等の資料を付けて送付することで、相手に十分な情報を伝えることができるから。
本村さん (伝わったか確認)	相手に必要な情報が確実に伝わっているかを確かめながら、丁寧に伝えたいから。	電話 ⇒ 会話を通して、相手の反応を確かめながら伝えることができるから。

④ 原稿用紙の使い方や行数の制限、段落ごとの条件を守って書く。

複数の情報から考えをまとめ、適切に表現する問題

話し合いを記録したメモ

相手	<案内の対象> 学習指導をしてくださるボランティアの方々
手段	<案内の時期> 体育大会1か月前 <伝える手段> 手書きの手紙、電子メール、電話、訪問
内容	<用意した資料> プログラム表 ※資料は、手紙や電子メールで送付したり、直接渡したりできる。 <伝える内容> ・日時：5月16日(土)9時開会 ・見所：応援合戦 11時から

【資料1】「相手に伝えるときに大切にしたいこと」についての意見

中川さん	私は、具体的に詳しく伝えることを大切にします。
山下さん	私は、気持ちを込めて伝えることを大切にしたいです。
上田さん	私は、要点を簡潔に伝えることを大切にしたいです。
本村さん	私は、伝わったかどうかをしっかりと確認しながら伝えることを大切にします。

【資料2】学級で考えた伝える手段の特徴

	手書きの手紙	電子メール	電話	訪問
情報のやり取り	返信があれば、必要な情報をやり取りできる。	返信があれば、必要な情報を素早くやり取りできる。	その場で、会話を通して、必要な情報をやり取りできる。	その場で、表情を見ながら、必要な情報をやり取りできる。
相手の状況	相手の都合のよいときに見ることができ、見たかどうかの確認ができない。	相手の都合のよいときに見ることができ、見たことの確認ができない場合もある。	相手の都合に合わせて合わせる必要があるが、確実に伝えることができる。	事前に相手の都合を確認する必要があるが、確実に伝えることができる。

問 田辺さんは、相手に伝えるときに大切にしたいことや、伝えたいことを効果的に伝える手段について考えている。あなたなら、どのように考えるか。次の条件1から条件4に従い、作文せよ。

条件1 文章は、二段落構成とすること。
 条件2 第一段落には、あなたが相手に伝える際に最も大切にしたいことを、【資料1】から一つ選び、その理由を書くこと。
 条件3 第二段落には、第一段落を踏まえ、あなたの伝えたいことを最も効果的に伝えることができる手段を、【資料2】から一つ選び、その理由を書くこと。
 条件4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従い、十行以上、十二行以内で書くこと。

五

目的

田辺さんの中学校では、毎年五月に行われる体育大会に、地域の方々を招待している。田辺さんの学級は、学習指導のボランティアの方々への案内を担当することになり、相手に伝えるときに大切にしたいことや、伝えたい手段などについて話し合いが行われた。次は、話し合いを記録したメモ、【資料1】は相手に伝えるときに大切にしたいことについての意見、【資料2】は学級で考えた伝える手段の特徴である。これらを読んで、後の問に答えよ。